

どうぶつこうえんニコース



千葉市動物公園
Chiba Zoological Park

No.63

2007

春

トピックス 動物と私……(24)



千葉県獣医師会会長 高橋 英雄
(Hideo Takahashi)

私は小さい頃から動物が大好きで、犬や猫、モルモットから小鳥といろいろな動物を飼ってきました。そして、いつも動物と接する、そして動物と人のための仕事をしたいと思い、獣医師になりました。そして、動物病院を開いています。

動物病院では、動物公園にいる動物たちのようにたくさんの人に楽しんでもらうのではなく、各家庭の家族として飼われている犬や猫などのペットを対象に診察しています。動物病院では、いろいろな病気の動物たちが来院します。最近多い病気は、人と同じで、生活習慣病や高齢病です。生活習慣病といっても、動物たちが勝手に生活しているわけではなく、家族である人間が管理しているのですが、ちょっとした愛情のかけ間違いで太らせて、高脂血症になったり、ホルモン異常を起こします。また、フードや獣医療の向上により、動物たちの寿命が延び、それに伴い認知症や白内障などの高齢病が増えていきます。

しかし、獣医師になったのは、最初に書きましたように動物が大好きだからであり、病気で運ばれてくる動物たちを見るといつも心が痛みます。でも、飼い主

さんも家族みんなで病気と闘っている姿を見、また、元気になるとこの仕事をしています。飼い主

さんたちも動物たちを病気にしようなどとは誰も思っていないのですが、ちょっとした勘違いで病気になってしまいます。そのような病気にしないように予防獣医学にも力を入れています。当然予防注射や予防薬の投与も大切ですが、高齢化してくると昔では必要性が少なかった歯の手入れや、食事の管理、また普段の動物の観察の仕方の指導が大変重要になってきています。

また、私は、この動物公園が大好きです。よく子供たちと遊びに来ます。そのときいつも思うのですが、職業上どうしても動物たちの健康状態が気になってしまいます。元気にいろいろなしぐさや行動をとって、私たち人間を癒してくれているのが当たり前のように思っていますが、そこには、飼育係の方や、獣医さんたちが一生懸命、健康管理しているのだらうと思います。いつまでも元気で私たちを楽しませてくれることを心から望みます。いつまでも元気で!!!

(千葉県動物公園協会評議員)

目次 CONTENTS

表紙【スミレコンゴウインコ】	①
トピックス【動物と私……(24)】	②
特集 子ども動物園より(8)	③
特集【千葉県動物公園ボランティア制度の紹介】	④
特集【動物科学館紹介 小型サル舎】	⑤
動物公園の動物【シタツンガファミリー】	⑥
飼育よもやま話【クロザルファミリーの紹介】	⑥
動物公園日誌から	
【'06.10/1~'06.12/31】	⑦
裏表紙【ミニアキヤット】	⑧
Information	⑧

表紙の動物説明 スミレコンゴウインコ

当園では、6種類のコンゴウインコを飼育展示しています。その中でもスミレコンゴウインコは一番目立つ存在です。全身が暗青色で、眼と下くちばしのまわりが黄色く目立ち、尾羽は長く体長は1m位で、インコ目最大の鳥です。姿は非常に美しいですが、鳴き声は逆に耳障りな大きな声を出します。姿が美しいためペットとしてもマニアの間で人気が高く、野生ではボリビアからブラジル南部に生息しますが、個体数の大幅な減少を招き、現在学術研究以外は飼育できません。当園のペアは、第一次開園以来飼育展示を継続中で、一昨年には産卵も見られました。当園の数少ない長寿動物の一員です。

小林 正典 (Masanori Kobayashi)

撮影：宮川 千尋 (Chihiro Miyakawa)

動物飼育数

Classified number of animals
as of 31 Jan. 2007

平成19年1月末現在の飼育数

哺乳類	66種	421点	両生類	1種	2点
鳥類	73種	300点	魚類	1種	2点
爬虫類	6種	30点	総計	147種	755点



子ども動物園より(8)



あたら しょう がい
新しいプログラム紹介

テンジクネズミの解説に挑戦!



あき ほう えい えい きょう さい きん
秋に放映されたドラマの影響でしょうか、最近テンジクネズミについて聞かれることがとて多くなりしました。そこで、子ども動物園ではお客様の多い土日の午後、ステージで「テンジクネズミの解説」に挑戦してもらおう「テンジクネズミの教室」を開催しています。

このプログラムは、まずクイズでテンジクネズミについて大切なことを知ってもらいます。たとえば、日本にやってきたのはいつか、ふるさとはどこか、指の数は何本か、お乳の数はいくつか、しっぽはあるかなどです。



テンジクネズミクイズ

ステージには、体重計やペレット（固形飼料のこと）などもおいて、テンジクネズミはどのように飼育したらよいか、気をつけることは何かなどについても知っていただいています。つめきりはどんな道具をするのですか？ 赤ちゃんはどのくらい一度に生まれますか？ など、たくさん質問もあります。フンは本当にバナナの形ですか？ という質問には、実際にフンも見せていただきます。また、体重測定を定期的に行うことで、健康に過ごせているかどうかチェックしていること、ときどきシャンプーをしていることなども紹介します。

そして、子ども動物園のスタッフが用意した「テンジクネズミ解説書」をゆっくりとマイクで読み上げてもらいます。「だれか、解説に挑戦してみませんか？ 漢字にはかながふってあるので、小学生ならだれでも



解説書朗読中

どうぞ」とよびかけますと、たくさんの手が挙がります。中には、お父さんやお母さんに「やってみたら」と誘われて、ちょっと恥ずかしいけれど手を挙げるお友だちもいます。全員が一度に読めないの、そういうときには、お手伝いとして、テンジクネズミをとなりで抱っこしてもらっています。

こうして、最後は台の上のテンジクネズミをみんなでかわいがってもらいます。記念撮影もOKです。ときには、好物のお野菜を少しずつあげてもらうこともあります。



ふれあいタイム

さあ、こんどは誰が解説に挑戦してくれるでしょうか？ 大人にも大人気のテンジクネズミたち。ぜひあなたも挑戦してみてください。

並木 美砂子 (Misako Namiki)



特集

千葉市動物公園ボランティア制度の紹介

平成18年度より、当園でもボランティアさんの活動が始まりました！

9月に説明会を開催したところ、30名を超える方にお集まりいただき、現在21名が登録されて活動を開始しています。

まずは、当園をよく知っていただくためと、飼育している動物たちのことを知っていただくために、養成講座を5日間にわたって開催しました。講座の中では、そもそも「ボランティア」という自発性を尊重した活動とはどういうことかについて千葉県立中央博物館の林浩二先生に、他園でのボランティア活動の実態などについては市民ZOOネットワークの大橋民恵先生にご紹介いただきました。



講座の中では、飼育担当者からそれぞれの動物の特徴や飼育エピソードをあらかじめ記し

た解説シートを資料とし、動物舎見学や飼料庫見学などもあわせて行いました。

講座修了後は、現在行われている動物ガイドに参加したり、イベントのお手伝いをいただいたりと、実際に園内での活動が始まります。とくに、2月11日の「クイズラリー」は、たくさんのボランティアの方のお手伝いに

より、今まで以上の参加者を増やすことができました。



また、飼育課としても月に2回程度の、動物情報提供の機会を設け、それぞれのボランティアの方が楽しく継続していけるような活動を模索してもらえよう、援助させていただきます。

お客様の前で何かお話しするのは苦手という方も、ユニフォームを身につけて園内にいるだけで、お客様からいろいろな質問をうける体験をして、少しずつそれぞれのスタイルができてつつあるようです。オレンジ色の帽子

やジャケットがボランティアさんの目印です。園内でお見かけのときは、ぜひお声をおかけください。



ボランティアの方の声

子供が大好きです。動物公園に来て遊んでいる子を見たり話したりすることで、人生を楽しみたいです。少しでも多く子供が楽しんでくれるよう、努力したいと思います。

出来るだけ長くボランティア活動を続けたいです。知識をたくさん吸収して活用することを目的にがんばりたいと思います。

動物はとても面白いですね。知れば知るほど不思議と謎の宝庫です。動物園は好奇心を全開にして楽しむところだと思います。

私は、いろいろな動物が好きです。千葉市動物公園で生きた動物たちの日頃の姿を、多くの人に見ていただければと思います。そして、来園者の皆様が動物たちと様々な交流をされるお手伝いが出来れば良いと考えています。

ボランティアに応募したのは、①自分としても出来ることに参加し時間的余裕を有効に使う、②役に立ち生き甲斐となるならと考え、知力、体力に合うと思い、動物公園ボランティアに参加しました。現在は動物に関する基礎的なことを教えてもらっている段階です。今後も楽しく協力出来れば幸いです。



動物科学館紹介 小型サル舎

南アメリカの霊長類

動物科学館2階の小型サル舎では南アメリカに住んでいるマーモセットを展示しています。

このマーモセットはアフリカ大陸の初期の真猿類が、その当時どこの大陸とも繋がっていなかった南アメリカに島づたいに漂流しながら渡ってきて、その後現在のような多様の種へと分化したと考えられています。

そのため、他の大陸のサルとは違った特徴があり、新世界ザルとか、広鼻猿類と呼ばれていて、鼻孔が横に開いていて鼻の穴の間隔が離れています。他の大陸のサルは旧世界ザル、狭鼻猿類と呼ばれ鼻孔が下に向かって開いていて鼻の穴の間隔が狭くなっています。

南アメリカのサルたちは外見として鼻が低く団子鼻という感じです。広鼻猿類にはマーモセット科の他にオマキザル科があり、当園のモンキーゾーンにジェフロイクモザルとフサオマキザルが展示されています。

マーモセット科の分類は同一種でも生息地によって体毛の色に大きな差があるため明確になっておらず、アマゾン川上流では十分な調査が行われていないこともあって、現在でも流動的です。

マーモセットの特徴と生態

マーモセットの仲間は種の違いこそあれ、その特徴と習性は類似しています。彼らは樹上生活に適応しており、足の親指を除いてすべての指にかぎ爪がありますが、このかぎ爪は原猿類に見られる真のかぎ爪ではなく、我々と同じ平爪が変化したもので樹上生活への適応といえます。動きは素早くジャンプ力もあり、体長よりも長い尾は樹上での活動時の体のバランスをとるのに使われています。

マーモセットは夫婦とその子供、そして血縁関係のない個体の群れで暮らしていますが、近年、血縁関係のない個体は頻繁に群れを渡り歩くことが分かりました。

マーモセットの仲間は通常双子を産み、父親やその子供たちが背負います。体が小さいこともあって、生まれたばかりの仔が背中にしがみついても背中のごぶ程度にしか見えません。母親に渡されるのは授乳の時が中心となります。

エサは果物や昆虫が主ですが、トカゲやヘビなどを食べることもあります。ピグミーマーモセットなどは顎の

骨の幅が狭く門歯は長くなっていて、樹木をかじって丸い穴を開けるのに適した構造になっており、開けた穴から染み出させた樹液や樹脂を食べます。

マーモセットの仲間は小型で種類ごとに特徴や体色がさまざまであり、特に若い個体は好奇心旺盛でガラス越しに見ていても近寄ってくる場合があります。ここでは当園で飼育しているマーモセットを何種類かご紹介します。

ピグミーマーモセット

体長が17cmと非常に小さいサルで、木にしがみついてもすぐに見分けられないこともありますが、クリクリとした丸い目がかわいい種類です。



エンペラータマリン

オス・メス共に白い口ひげが特徴的です。他の種のタマリンと縄張りを共有する性質があります。

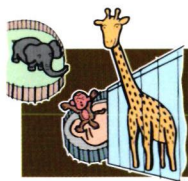


ワタボウシパンシェ

頭に白い綿帽子を被っているように見えることから名前がついた種で、ペット用や医学研究用に捕獲されたり、生息地の開発などで生息数が減っています。



宮川 千尋 (Chihiro Miyakawa)



動物公園ニュース

(動物公園の動物)

シタツンガファミリー



お父さんの「ミドル」君は、2003年7月生まれで、2005年2月に姫路セントラルパークから、お母さんの「ミナ」さんは、2003年4月生まれで、2004年3月に東武動物公園からやって来ました。2頭の間には2005年12月生まれの女の子と、2006年11月生まれの男の子がいて、4頭のファミリーです。

シタツンガは2つの角と、4つの部屋からなる胃を持つウシの仲間で「ヌマレイヨウ」とも呼ばれています。全身灰褐色がかったオス、明るい茶色のメス、両者とも目の周り、頬が白く、背中に白い縞があります。オスだけに抜け落ちない1周半、うずを巻いている角があります。

アフリカ西部及び中部のスーダン・カメルーン・コンゴに生息し、大型補食動物の餌となるので、全体がよく見えるように大きく横についた目を持ち、長くよく動く耳、ニオイに対してすばやく反応する鼻を持っています。

自然界では葦・草・低木の葉・芽を含む水中及び陸上の植物を餌としています。また、長くて尖った蹄は体重を分散し、沼地や湿地帯を沈まず歩くのに適しています。補食動物に追われたときには、目と鼻だけ出して水に潜ることもあります。動物園では青草・乾草・草食獣用ペレット等を与えています。

林 まさ代 (Masayo Hayashi)

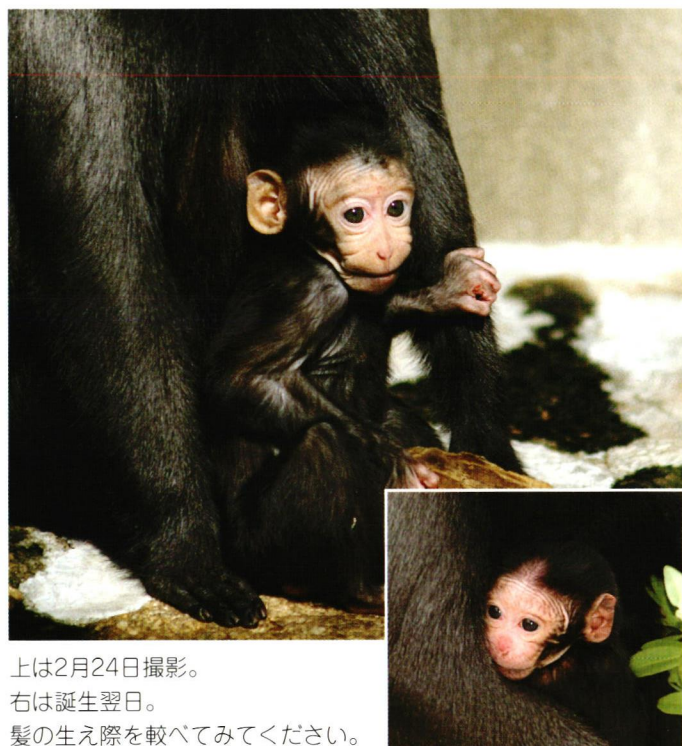


飼育よもやま話

熱心なのはいいけれど (クロザルファミリーの紹介)

去年の12月19日にクロザルの赤ちゃんが誕生しました。家族4頭、それぞれ紹介してみましょう。まずはお父さんの『アオ』。一番大きく、筋肉質。大きなアクビは「威嚇」です。次にお母さんの「キーちゃん」。「お尻」に注目すると、なにやらシワシワ。焼きリンゴみたい。これはメスの特徴です。ちなみに、オスのお尻にはハート型の「尻タコ」があります。次は息子の『アサギ』。5月で2歳になるアサギは遊び盛りで元気いっぱい！ 跳んで走って大暴れ。アオを踏み台にしたり、噛み付いたり、蹴飛ばしたり……度が過ぎて怒られることもしばしば。そして最後に、赤ちゃん。産まれてすぐは顔と手足が肌色です。それが成長するにつれて黒くなります。ところが、産まれてしばらくすると赤ちゃんに異変が現れました。なぜか、肌色の部分が広がっていくのです。観察してみると、毛の量が減っている。いや、なくなっているではありませんか！ なんと、キーちゃんが毛繕いに熱中しすぎて抜いてしまったようです。みなさんがこのニュースを手にする頃には赤ちゃんの顔や手足はだいぶ黒くなっているはず。はたしてそのときまでに毛は生え揃っているのでしょうか？ クロザル特有のモヒカンヘアーになっているのでしょうか？

加藤 洋子 (Yoko Kato)



上は2月24日撮影。

右は誕生翌日。

髪が生え際を較べてみてください。



動物公園日誌から

From Zoological Park Diary

’06年10月1日～’06年12月31日

- 10月1日 チンパンジー、放飼場にて消防ホースの切れ端（1m）を与えるが、少し遊びその後使わない
ミーアキャット（No.22）、捕獲し左右の前足についた土の塊を取り除く
写真教室開催
- 10月2日 テンジクネズミ（8頭）、市川市動植物園に搬出
ゾウ、ゾウ舎工事に伴い本日より夜間パドックに放飼
- 10月3日 幕張総合高校2年生、校外学習
レッサーパンダ、子どもの体重測定を試みるが暴れて逃げるため計測できず
- 10月4日 マダガスカルホシガメ、体重測定
- 10月6日 パラワンコクジャク（雄）、両足に絡まった糸を捕獲して取る
シマウマ類、モウコノウマ、腰麻痺予防薬投与



- 10月8日 オオカンガルー（マキ）の仔、育児嚢から出る
ゴリラ、放飼場に消防ホースを張る
人工哺乳中のカオムラサキラングール、死亡
- 10月9日 カオムラサキラングール（雌）、動きかなり鈍く、全身の震え目立つ
- 10月10日 ゾウ、工事のため、室内に足場設置
カオムラサキラングール（雌）、終日下にいる
- 10月11日 カオムラサキラングール（雌）、投薬開始
- 10月12日 カオムラサキラングール（雌）、今日は終日上にいる 木の葉、どんぐり、ソルゴーをよく食べる
ハシビロコウ（雌）、死亡
- 10月15日 ワンポイントウォッチング開催（アビシニアコロブス）
- 10月16日 ワオキツネザル（雄：リク）、群れに戻す 雄同士はトラブルはないが雌の1頭に追い回される 夜間、雄は別室
ゾウ、展示場の丸太のチェーンを引きちぎり、石柱外側へ出してしまう
ハシビロコウ、赤リングが黄リングの放飼場に入ってしまうがトラブルは無し 体重測定（赤：6.1kg、黄：5.2kg、無し：5.3kg）
- 10月18日 大宮中学校、職場体験研修（2名）19日まで
- 10月20日 ゴリラ（モモコ）、体重計に乗る 12.1kg
ホンドザル（雄：ミズバショウ）、向かってくるような仕草をし、収容後は室内で大暴れをする
- 10月22日 キングペンギン（雄）、死亡
- 10月23日 レッサーパンダ（仔）、体重測定 雄：2,620g、雌：2,860g
- 10月24日 ラマ（シロ）、食欲不振 気温も低いため放飼せず 抗生物質注射
- 10月26日 ラマ（シロ）、昨日よりは元気が出てきている 10時30分まで放飼する
- 10月28日 ワオキツネザル、繁殖（1頭）
- 10月30日 マダガスカルホシガメ、体重測定
- 10月31日 レッサーパンダ（仔）、体重測定 雄：2,850g、雌：3,080g
- 11月1日 レッサーパンダ（仔）、名前決定 雄（ユウタ）、雌（風花）
ゾウ、室内工事終了 雄はすぐ入るが、雌は少しためらう
- 11月2日 幕張総合高校2年生、校外学習
- 11月3日 ラマ（シロ）、食欲不振は無くなり、よく食べるようになる 元気もある
Zooクイズラリー開催
- 11月5日 動物公園ボランティア養成講座（1回目）実施
- 11月6日 レッサーパンダ（仔）、体重測定 ユウタ：3,000g、風花：3,460g
ゾウ、本日より屋外工事開始
- 11月7日 ゴリラ、8:40～9:10放飼場A、Bで親子を分ける 10:00よりモモコとモンタ、柵越しにお見合いをする 両者たまに扉前に行くが、ほとんどすれ違い
パタスザル（雄）、死亡
- 11月8日 市立千葉高校、校外学習（40名）哺乳類、草食獣の説明
- 11月9日 チンパンジー（ジージョ）、鼻水、セキ（サンタ）、鼻水
高浜中学校、職場体験研修

- 11月10日 ワタボウシバンシェ（2頭）、繁殖
シタツンガ（1頭）、繁殖
- 11月12日 ワンポイントウォッチング開催（ハゴロモヅル）
- 11月13日 キンカジュウ（1頭）、繁殖
- 11月14日 ケープペンギン、産卵
カリフォルニアアシカ（仔）、体重測定 22.4kg
カメ池、少しずつ落ち葉を足して、越冬の準備をする
コシジロヤマドリ、雄と雌を同居させる
エミウ、産卵
ケープペンギン、産卵（2卵目）
ハートマンヤマシマウマ、破傷風予防接種
- 11月21日 レッサーパンダ（仔）、体重測定 ユウタ：3,380g、風花：3,820g
- 11月22日 ゴリラ、体重測定 モモコ：12.1kg モモタロウ：73.5kg
- 11月27日 レッサーパンダ（仔）、体重測定 ユウタ：3,700g、風花：4,200g
- 11月28日 カリフォルニアアシカ（フォル）、体重測定 23.7kg
- 11月29日 ハシビロコウ、体重測定（赤：6.1kg、黄：5.1kg、無し：5.7kg）



- 12月4日 ニワトリ（小国）、ヤケイ舎に移動し展示開始
レッサーパンダ（仔）、体重測定 ユウタ：3,880g、風花：4,420g
ヒオドシジュケイ（雄1、雌1）、新着
- 12月5日 Zooキッズデー開催
- 12月9日 ワンポイントウォッチング開催（トナカイ）
- 12月10日 レッサーパンダ（仔）、体重測定 ユウタ：4,280g、風花：4,840g
- 12月11日 オオカンガルー（仔）、破傷風予防接種
- 12月14日 アミメキリン（雄）、室内で2度ほど座り込む ふるえがある
抗生物質を注射
- 12月15日 アミメキリン（雄）、死亡
- 12月17日 クリスマスシアター開催



- 12月18日 ゴリラ、モモコとモンタを放飼場Aにて同居させる
午前中はモモコがモンタを3回ほど追い回す モンタは逃げるがしばらくするとモモコに近づく その後反応がなくなる
レッサーパンダ（仔）、体重測定 ユウタ：4,400g、風花：4,960g
ミーアキャット（仔）、確認
- 12月19日 クロザル（1頭）、繁殖
- 12月21日 エミウ、産卵
- 12月25日 ケープペンギン、雛の背が見える
レッサーパンダ（仔）、体重測定 ユウタ：4,500g、風花：5,140g
浅野 洋之（Hiroyuki Asano）

編集後記

今年は暖冬のためか、当動物公園は来園者も大変多く、動物たちも活動的でした。桜の開花もいつもより早く、このどうぶつこうえんニュースが皆様のお手元に届く頃は満開だと思います。皆様はいかがお過ごしでしょうか。どうぶつこうえんニュース63号もようやく完成しましたので、どうぞご覧になってください。

名和 全孝（Zenkou Nawa）



ミーアキャット



Information

平成19年3月・4月・5月の 催し物一覧

- ★ 3月11日㊦ ワンポイントウォッチング (ミニブタ)
- ★ 3月21日㊦ Zooクイズラリー
- ★ 3月25日㊦ 紙芝居会 (園内4ヶ所)
- ★ 4月15日㊦ ワンポイントウォッチング (グレビーシマウマ)
- ★ 5月12日㊦ バードウィーク講演会
- ★ 5月13日㊦ ワンポイントウォッチング (キンカジョウ)
- ★ 5月26日㊦ ファミリーシアター

どうぶつこうえんニュース第63号
平成19年3月1日発行

編集
発行

千葉市動物公園・財千葉市動物公園協会 [総合案内] ☎ 043-252-1111
〒264-0037 千葉市若葉区源町280番地 280 Minamoto-cho Wakabaku Chiba-City Japan.
<http://www.city.chiba.jp/zoo/>